

水銀に関する水俣条約

Minamata Convention on Mercury



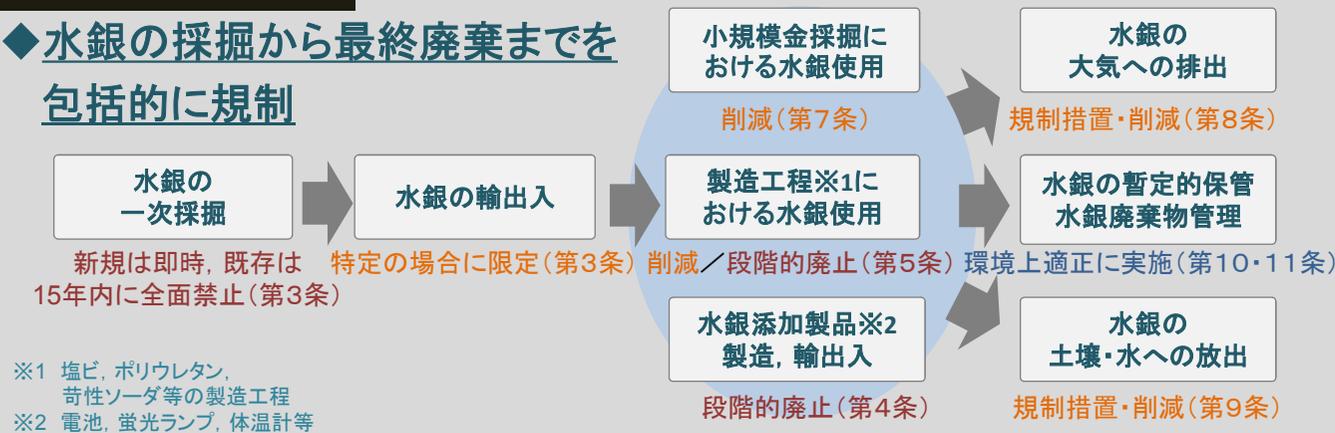
水俣条約外交会議ロゴマーク

背景

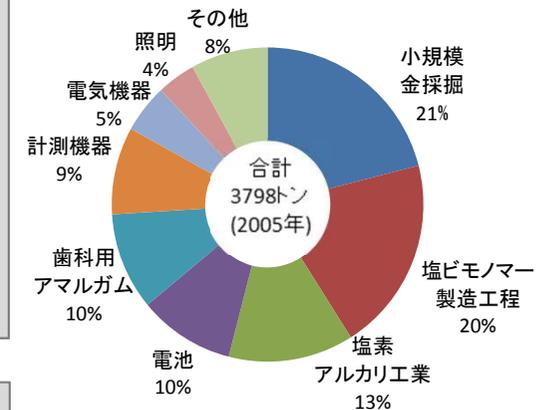
- 水銀使用によるアマゾン下流域等における被害等，国際的な水銀規制への認識の高まりを受け，2010年より条約交渉開始
- 2013年10月，熊本市，水俣市における国連環境計画（UNEP）主催会議で採択
（同月，我が国署名。現在署名国127箇国＋EU）
- 2015年 1月現在，未発効
※50箇国の締結後90日で発効。2015年1月現在，締約国は米国，ジブチ，ガボン，ガイアナ，モナコ，ウルグアイ，ギニア，ニカラグア，レソト及びセーシェルの10箇国。

主な内容

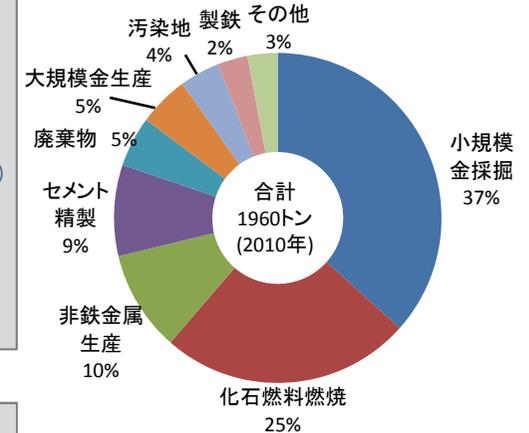
◆水銀の採掘から最終廃棄までを包括的に規制



世界における水銀使用量の内訳



世界における水銀大気排出量



早期締結の必要性

- 水俣病の経験を有する我が国として，優れた水銀代替・削減技術を活かし，世界の水銀対策に主導的に取り組むことが重要。国民の健康保護，環境保全にも貢献。
- 条約発効前に締結し，条約実施に関する各種手引き等を議論する第1回締約国会議に締約国として参加できるようにする必要あり。

我が国における水銀を取り巻く現状（2010年）

- ★ 日本の水銀需要：約8.6トン／年
- ★ 日本の大気排出量：約17～21トン／年